

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第2回 河内長野市観光振興計画策定委員会
2 開催日時	平成29年9月29日(金) 午後3時から
3 開催場所	市役所501会議室
4 会議の概要	(1) 計画策定に係る各種調査の報告について (2) 河内長野市観光振興計画の基本となる考え方について (3) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	なし
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 産業観光課 (内線 479)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第2回河内長野市観光振興計画策定委員会（平成29年9月29日） 議事要旨

【出席委員】

尾久土委員長、清水副委員長、上野委員、徳永委員、阪口委員、中島委員、高橋委員

【出席事務局メンバー】

(市)：太口環境経済部長、尾西産業観光課長、森田産業観光課参事

長野産業観光課課長補佐兼係長、畑中産業観光課係長、西本産業観光課副主査

(コンサル)：株式会社 都市設計総合研究所 田中所長

1 開会

2 開会のあいさつ（尾久土委員長）

本日はお忙しい中、委員の皆さんに出席いただき感謝申し上げます。平成29年9月11日に官邸で開催された人生100年時代構想会議（ひとづくり革命）では、2007年に生まれた子供の50%が107歳まで生きるという研究結果について議論された。そうなれば「シニア層」などといった今の年代別の区分けでは表現しきれなくなる。また長い人生となることで学ぶことも増え、生涯学習の時代になっている。となれば、観光も一つの「学ぶ要素」と捉えることもできる。このように概念が変わっていく中、今検討中の計画の期間を考え、2020年のオリンピックよりも先の世界も踏まえた話が出来れば良いと思うので、ご協力よろしくお願ひします。

3 議事

(1) 計画策定に係る各種調査の報告について

事務局(市)： 市政アンケートの結果について、資料に基づき説明

コンサル： WEBアンケートの結果について、資料に基づき説明

委員長： 今の説明に対してご意見、ご質問を。

委員： 市民アンケートを回答するのに何分くらいかかっているのか？また回答者に粗品は出ているのか？

事務局(市)： 市民アンケートは全体で40問程度あることから、全ての回答には20分から30分程度は必要と思われる。アンケートは対象者の自宅に送付する形をとっており、謝礼等はありません。

委員長： WEBアンケートはアンケートサイトに登録した会員による回答か？参加すればポイントがもらえるなどのメリットがあるものか？

コンサル： そのとおり。

委員長： アンケートの速報から見た新たな課題、もっと深く調べて欲しいところや、集計して欲しいところについてあれば意見いただきたい。

委員： 観光に対する評価アンケートを見ての感想で、市民に対しての観光への意識を醸成させなければいけない部分ではないかと思う。アンケート回答者には河内

長野市に長く居住して、河内長野のことを良く知る人も多

いと思うが、ベッドタウンとしても栄えてきたことも踏まえて、他所から移り住んできた人にも良さを伝えていくのが大切と感じた。

委員：以前から思っているのが「交通手段」の部分。市民アンケートで「市内観光に便利な交通手段の充実」が、「非常に重要」と「やや重要」と答えた率が合わせて80.5%と飛びぬけて高い。金剛寺、花の文化園を通る循環バスやジャンボタクシーを路線バスの利用に影響しない春・秋のシーズンに限定しても良いので、出来ないものか。

委員：観心寺から延命寺にかけて南海電鉄がウォーキングルートのパンフレットを作っており、観光案内所でこれを配布すると徒歩移動のお客さまには十分、利用いただいている。しかし、残念ながら金剛寺まで足を延ばす分まではサポートできていない。レンタサイクルも河内長野駅前では数台ではあるが希望者には案内できていない。そのレベルまでは環境が整ってきている。

委員：市民アンケートの中で紹介したいイベントの項目では高野街道まつりがと回答している人が多いが、商工祭と市民まつりと回答した人が、あまりにも少ないのはなぜだろうか。市民まつりが一番回答数が多いと思っていたが。商工祭の0.5%は、商工会の人が見たらショックを感じるのではないか。

事務局（市）：アンケートの設問が「観光客にお勧めのイベントはなにか」という聞き方になっていることが影響しているのではないか。「市民が楽しむ」というより「観光客にお勧めする」という観光という観点で聞いている為に、このような回答結果になったかと分析している。

委員：WEBアンケートで河内長野に観光に来たのが5年くらい前という人が半数くらいいらっしゃるということは、最近は来ていない方が多いということだと思う。大阪府内という近くにありながら、なぜ行かないのか？行こうという動機づけが不足しているのか？検討が必要ではないか。

副委員長：市民アンケートについては、市外の人に誇れる資源があると認識されているが、それが観光に繋がらない。どうすればよいのだろうかという状態にある事も認識されているような結果だといえる。また、観光資源はトップでお勧めしたいものと、そうでないものの差が出ている。これは逆にマーケティングに使えると思うので、結果に沿った売り出し方を考えていけばよいのでは。その点では差が出たのは良かったのではないかと思う。あと「ちかくて、ふかい 奥河内」に関する設問では、イメージに合っていると回答した人が51.9%であるが、逆に、どちらとも言えない、つまり合っているとまでは思っていないと回答した人が43.4%いたのが残念である。また市外のWEBアンケートについて、観光情報を事前に見たかという問いに対して、「見なかった」という回答が65.3%ある。リピーターが多いので見られていないのではなく、必要な情報が出されていないからではないか。今の時代、観光の情報を得るのはWEBが主流であり、WEBサイトに情報を求めるものの更新されていなければ次からは諦めて見ないという可能性もあると思うのでもう少し深い分析が必要ではないかと思

う。河内長野以外の場所にも訪れる人が多く、当市だけではなく広域の観光というものも必要と感じる。あと、若い男性に「ちかくて、ふかい 奥河内」の認知度が高く、高齢者が低いという年齢層で顕著に差が出ているのはWEBサイトを見ているという事かもしれない。「ちかくて、ふかい 奥河内」は平成22年度から続けてきていて、今後も続けていきたい気持ちからアンケートを取っていると思うのだが、一定のイメージに合わないという意見も踏まえてながら、一方で使い続けて定着させていくことも大切であるので、本市のキャッチフレーズを考えるよい材料になったのではないかな。

委員長： 気になるのは市民アンケートの中で、観光の取り組みを進めることで期待される効果を聞くと多くが「認知度向上」と答えている。雇用や産業の振興にはあまり興味がない結果になっているということは、本市の人口構造の特徴であるベッドタウン型、とりわけサラリーマンが多く住んでいるところを考えると、自分たちが住んでいる街が有名になる事が一番のメリットであるからだと考えているから。商工業者が多い街だと違った結果が出ていたと思われる。そして、WEBアンケートでの満足度、若年男性に人気があるのは珍しい結果で、イメージ戦略としては発信力の弱い男性よりも、発信力の強い若い女性の満足度が高い方がよいと思われる。加えて、南海電鉄だけでなく、近鉄電車もやはり利用されている。南海線は高野山、近鉄線は吉野と繋がる。帰りに高野山や吉野に寄れる、その繋がりを積極的にアピールできればメリットになるところと言える。ほかに意見はないか。なければ次の議題へ進みたい。

～一同了承～

(2) 河内長野市観光振興計画の基本となる考え方について

事務局（市）： 資料に基づいて説明。

委員長： ここでは素案骨子の内容について重点的に議論して頂いた方が効率が良い。ご意見などあればよろしくお願いします。

委員： 観光ニーズの提案でサイクリスト（自転車、バイク）が上がっているが、自転車、バイクを利用する上で安全面を考えたルートを検討すべき。

委員： 観光ボランティアをやっているが、歴史的なところを、自分だけで資料を見ながら歩くより、観光ボランティアが少し説明をしながら一緒に歩いて欲しいと言われる。行きたい、と思わせる観光情報の発信については、インターネットを活用して、観光協会や観光ボランティアのHPでイベントの紹介をし、参加意欲を喚起する発信の仕組みを充実させる必要がある。観光ボランティアのHPは始めたばかりでまだ浸透度が低いですが、継続すればガイド申込みの増加にもつながる。あわせて、観光案内所のパンフレットも整理して戦略的に効果が狙えるチラシを置くべきではないかと考える。

委員： 情報発信は重要だが発信側の意図だけでは見る人の心に刺さらない。単にイベント日程や開催場所を発信するだけでなく、情報を受ける側の立場に立った情報発信が必要。河内長野市観光協会のFaceBookは毎日、更新されているが、

さらに多くの人に見てもらえる工夫を。加えて「奥河内」のイメージが膨らむ情報発信も必要と思う。

委員：河内長野市の観光振興のあるべき姿は経済の活性化にきっちり繋げていかなければならないという点にあると考える。政策の柱である奥河内のイメージだが、「奥」という言葉への抵抗感、違和感があるという意見も一部にある。だがイメージ戦略は続ける事が重要で、「奥」という言葉を含めての奥河内の良さ、個性をどうやって広めていくかが大切。これは情報発信にも繋がっていくのかと思うが、今月と来月 JCOM チャンネルの「なんかいい日和」という番組で河内長野と奥河内の紹介をする。そういう活動も含めて奥河内のイメージを高め、お客さん呼び込んで頂ければと考える。またイベント依存から情報発信への転換という点について、「恒常的な集客を得る」為の情報発信も重要だが、イベントによる集客も大事だと思うのでまったく切り離すのではなく、双方を絡めた一体的なものとしていくべきではないか。観光客を迎える観光整備の点で二次交通がまだ機能しないところもあるのだが、南海バスの乗り放題も便利な部分を上手に PR するなど出来るところからできれば良いと思う。マネジメント効果の中で近隣自治体との連携では南泉州が南河内を参考にハイキングを始めたと聞く。近隣自治体との連携をより一生懸命に、日本遺産の取り組みも継続していくべき。

委員：道の駅 奥河内くろまるの郷は、コーナーの都合もあるのだろうが土産的なものは少ないように思う。河内長野の特産品は多く、天野酒が非常に有名で他にも豆菓子やすだれ等いろいろな物がある。おみやげの販売強化といっても場所も考えないといけない。女性は食べ歩きや土産を買って帰りたいという要望もあるので、試食が出来るような工夫が出来れば良い。

副委員長：河内長野のイメージ強化していくべき。「奥河内」という言葉も継続していくのであればどんどん発信していく必要があると思うが、一方で観光協会の HP は、「奥河内」という言葉がひっかかりにくい。やはり奥河内という言葉を知らない人や外国人など、どんなターゲットにも同じ言葉でイメージが通じる必要がある。情報を伝えたいターゲットごとにキャッチフレーズを変えている自治体もあり、ターゲットに応じた工夫も必要。集客をして経済につなげたいなら、質の高い観光地を目指すという事になると思う。大阪市内は、富裕層に訴求した質の高い観光商品が少ないと言われているが、逆に河内長野は高級な観光が出来る場所を目指すのもありではないか。情報発信で集客しても中身がなければ観光客ががっかりするので、消費に繋がる高品質な商品の開発や、イベントの中身などを充実させいくべき。イベントは必要なものはキープするべきで、全てを止めてしまうのは良くないと思う。マネジメント強化の部分は、どこがなにをどのように行っていくのかなど、より具体的にしてほしい。

委員長：河内長野の市民に対して、観光振興を進めていくメリットが伝わっていないのではないか。観光でメリットがあるのは一部の事業者のみだというふうになっている。観光を通じて地元の産業が活性化すれば市の財政が安定する。また、

街に観光客が増えていけば電車やバスの本数が増え、住みやすくなっていくものである。「観光まちづくり」を進めることは、住んでいる人にとっても良い街になっていくことにつながっていくことだと市民に伝えていかないといけない。訪れる人ばかりの話ではなく、市民に関係する話だということを、機会を作って伝えていく必要があると思うし、観光振興は一部の事業者のモノではなく市民全員に影響があるのだと理解してもらおう努力が必要である。また、空き家が増えていく状況を逆手に捉えて、民泊にそれらを活用するという手もある。イベントについては、「依存」するのが良くないだけで、イベントを使っていく事は重要だと思う。二次交通の面で紹介したいのは、日本人の3,000万人が使っているといわれる乗換アプリがある。そのアプリに自治体が事業者に希望して公共バス・コミュニティバスのレベルまで掲載されるようになった。しかも外国語にも対応を始めており、外国人もバスに乗れるようになっている。河内長野のバスも掲載された。さらに外国人ライターがお勧めの観光地の口コミ情報を書いて、旅案内もしている。二次交通の課題はハードの整備だけでなく、こういった媒体もうまく活用していけばどうか。いずれにしても、この計画ができたときに市民にも関係があるものということをきちんと伝えていくようにしたい。この次のステップへ向け、事務局にて本日出た意見等をもう一度確認していただき、作業を進めてもらいたい。

～一同了承～

(3) その他

事務局（市）： 活発な議論、貴重な意見をありがとうございます。本日の内容をまとめ、骨子案を肉付けする作業を進めたい。なお第3回の委員会は11月下旬から12月上旬に予定している。次回はパブリックコメント案の確認の為の会議になることから、その前に肉付け後の骨子案をまずメールで確認していただき、意見を頂きながら第3回の委員会に向けた最終調整を行っていきたいと考えている。

委員長： 来年1月にはパブリックコメントを出さなければならない。10月下旬を目処に今日の意見を参考にしたパブリックコメントに出すたたき台をメールでお送りするので意見を出してもらいたい。

～一同了承～

4 閉会のあいさつ（太口環境経済部長）

～閉会～